

平成29年度第1回環境審議会 諮問案件

「ごみ減量施策」への委員個別の意見のまとめ

- ・分類 1.ごみ施策に関する総論、3.ごみ処理費用や財政について、6.その他 の意見なし。
- ・意見の文末の(原)は、ほぼ原文のまま表記の意。他は、要約編集して表記。

<2. ごみの処理・発生量について>

- 2-1 堆肥センターの突然の打ち切りは、住民のリサイクルやごみ減量への取組み(行動)と、住民のごみや環境に対する意識(気持ち)を奪ってしまった。これを取り戻す施策が必要だ。
- 2-2 ごみ分別、3Rへの意識向上への一層の取組みが必要。

<4. 具体的なごみ施策・事業について>

- 4-1 可燃ごみ組成調査によると28年度で資源が15.2%あり、これは約1,700tに当たる。これを取り出すのは至難の技であるが、広報その他の方法で市民の協力を得る事が必要。(原)
- 4-2 可燃ごみの組成調査は1回につきもう少しロットを多くした方が良いと感じる。(原)
- 4-3 事業系ごみの量と組成が分かりづらいので調べてほしい。減らせるものがもっとあるように感じる。(原)
- 4-4 ごみ減量PRを、市議に協力してもらう。
- 4-5 区単位のごみ排出量を示して、区長会議等で協力を仰ぐ。
- 4-6 広報紙面を大きくしたPRを。
- 4-7 レジ袋サイズの指定ごみ袋を作るべし。
- 4-8 人の集まる所に出向いてPRや説明をする。

- 4-9 学校現場のごみ減量、食品ロスの授業に積極参加する。
- 4-10 生ごみの水切りの徹底と、そのPR強化を。
- 4-11 地域ごみ出しアドバイザーを設けては。
- 4-12 個別収集に近い収集にすると、分別や減量に効果が出ると思う。
- 4-13 有料化の収入を堆肥センターに充てる。

<5. ごみ有料化(施策)について>

- 5-1 慎重に行うべきだ。
- 5-2 少々のごみ袋の値上げは、すぐに慣れてしまう。
- 5-3 かなりの値上げは、不法投棄につながる。
- 5-4 2～3年前にごみ有料化を始めた先進都市の経過をしばらく見た方がよい。
- 5-5 短絡的に進めなければ、ごみ減量には有効な方法だ。
- 5-6 「税との二重払い」という意見に、どう答えるのか。
- 5-7 不法投棄増→地域の処理費増→町内会費の負担増、という悪循環がみえる。
- 5-8 ごみ拾い、草むしりといった、ちょっとしたボランティアにも水を挿す。
- 5-9 新ごみ処理施設の費用増のためといわれると抵抗感が強い。
- 5-10 市民の協力を報いる制度でなければならない。
- 5-11 ごみ減量の成果や、有料化の余剰額を住民に還元すべし。
- 5-12 住民にとっては、ごみの有料化は最終手段であってほしい。
- 5-13 イベント時の啓発、定期的なPRを。(例:毎月×日は〇〇の日)
- 5-14 啓発や宣伝も Plan・Do・See・Action をしっかり行うべし。